２月２２日は「猫の日」　猫の絵などの展覧会

２月２２日は、「にゃん・にゃん・にゃん」という　　似ているため、　　になっています。東京の銀座では２２日から２６日まで、猫の絵を展覧会を　　。

江戸時代の　　、歌舞伎の俳優がお化けの猫の　　ところが、美しい色でかいてあります。　　の子どものための浮世絵には、人のように温泉に入る猫たちが　　。

横浜市から絵を見にきた男子大学生は、「猫はいつも　　をして、　　しないところがいいと思います」と話していました。

ペットフード協会によると、最近、犬のペットは毎年約　　少なくなっていますが、猫は増えています。去年のペットの数は、犬が９９１万匹、猫が９８７万匹で　　。

２月２２日は「猫の日」　猫の絵などの展覧会

２月２２日は、「にゃん・にゃん・にゃん」という猫が鳴く声と音が似ているため、「猫の日」になっています。東京の銀座では２２日から２６日まで、猫の絵を集めた展覧会を行っています。

江戸時代の浮世絵には、歌舞伎の俳優がお化けの猫の役をしているところが、美しい色でかいてあります。明治時代の子どものための浮世絵には、人のように温泉に入る猫たちが面白くかいてあります。

横浜市から絵を見にきた男子大学生は、「猫はいつも自分のやりたいことをして、人の言う通りにしないところがいいと思います」と話していました。

ペットフード協会によると、最近、犬のペットは毎年約５０万匹ずつ少なくなっていますが、猫は増えています。去年のペットの数は、犬が９９１万匹、猫が９８７万匹でほとんど同じになりました。

２月２２日は「猫の日」 浮世絵など展示

２月２２は「にゃん・にゃん・にゃん」の語呂合わせで「猫の日」とされています。これにちなんで、東京・銀座のギャラリーで猫が描かれた浮世絵などを集めた展示会が２２日から始まりました。

「猫れくしょん」と名付けられたこの展示会は、２月２２日がペットフード協会などが決めた「猫の日」となっているのにちなんで、東京・銀座のギャラリーで２２日から開かれているもので、猫が描かれた浮世絵など３０点余りが展示されています。

このうち、猫好きで知られた江戸時代の浮世絵師、歌川国芳が歌舞伎の舞台を描いた浮世絵は、化け猫を演じる三代目、尾上菊五郎の姿が鮮やかな色彩で表現されています。

また、明治時代の子ども向けの浮世絵「新板猫の温泉」は、人に見立てた猫たちが温泉に入る姿がユーモラスに描かれています。

このほか画家、藤田嗣治の猫の絵なども展示されていて、訪れた人たちは時代を超えて愛されてきた猫たちの姿に見入っていました。

横浜市から訪れた男子大学生は、「猫はいつも勝手気ままで、人にこびないところがいいと思います。猫は昔から人々に大事にされていたんだなと感じました」と話していました。
この展示会は、今月２６日まで開かれています。

猫専門の書店も登場

本の町として知られる東京・神田神保町には全国でも珍しい猫専門の書店があり、猫好きの人たちの間で人気を集めています。

店内には猫が登場する小説や漫画、それに猫の写真集など猫に関係する本ばかり、およそ５００種類が並べられています。

書店を経営する姉川二三夫さんによりますと、もともとは５０年近く続く普通の書店でしたが、３年前、経営が厳しくなり、店をたたもうかと考えていた時に娘から「猫の本を置いてみたら」とアドバイスを受けたということです。
初めは小さな猫コーナーでしたが、口コミで情報が広がったのか週末には人だかりができるようになり、次第に猫の本を増やしていったところ、去年の夏ごろからは猫の本専門の書店になっていたということです。

今では全国から猫好きの客が集まり、売り上げは以前の３倍になったということです。
書店を訪れていた女性客は、「ＳＮＳで猫の本がたくさんあると聞いて大阪から来ました。これだけ充実している書店はほかになく、たくさん買ってしまいそうです」と話していました。
姉川さんは「猫に助けられました。去年の夏ごろからは出版社が一斉に猫に関する本を売り出していて、うまく猫ブームに乗れたと感じています。娘と客を呼ぶ『招き猫』だねと話して喜んでいます」と話していました。

経済効果 約２兆３０００億円

猫の人気に伴う経済効果、名付けて「ネコノミクス」は年間およそ２兆３０００億円に上るとする試算が今月、発表されました。試算したのは関西大学の宮本勝浩名誉教授です。

その内訳は、まず、直接的な効果として、餌代や病院代など飼育にかかる費用が全体でおよそ１兆１０００億円、和歌山電鉄の「たま駅長」など猫の人気で観光客が増えるなどの効果がおよそ４０億円、それに猫に関連した映画や本、グッズなどの売り上げがおよそ３０億円などで、合わせておよそ１兆１０７０億円としています。

そして、そこから波及して猫の関連のメーカーに原料を卸す会社の売り上げ増加や、所得が上がった人たちが追加で消費する分など、合わせておよそ１兆２０００億円の経済効果が生まれていると試算しています。

これらを合わせると去年１年間の猫による全体の経済効果、「ネコノミクス」はおよそ２兆３０００億円に上るということです。

試算した宮本名誉教授は、「これまでさまざまな現象による経済効果を計算してきたが、２兆円を超えるものは珍しく、猫の人気が経済に与える影響が相当大きいことが明らかになった」と話しています。

ペット数 犬を上回るか

全国のペットの数を調査しているペットフード協会によりますと、５年前の平成２３年の調査では、推計で犬が１１９３万匹、猫が９６０万匹と、犬が２３０万匹ほど多くなっていました。

しかし、この数年、犬は毎年５０万匹ほど減っているのに対して、猫は増加傾向にあります。去年の調査では犬が９９１万匹、猫が９８７万匹と推計されていて、差はおよそ４万匹とほぼ並んでいます。
ペットフード協会の越村義雄名誉会長は、「猫は散歩させる必要が無いので、高齢化や１人暮らしが増えるなかで飼いやすい猫が歓迎されているのではないか。ことし中には猫が犬を上回ると考えられる」と話しています。